

平成 30 年度 奈良県教育長賞

飲物一本からできる納税

奈良県立高取国際高等学校 一年 松本 亮

高校に入学してから五ヶ月が過ぎ、日々部活の毎日が続いています。今年は猛暑となり部活でも水分補給の重要性を指導されています。部活が終わる頃になると朝、持参した飲物が底をつき、毎日自販機で飲物を買って帰ることが日課となっていました。「自販機は高いからもったいないな。」と思いながらも買って飲んでいました。

その日の夕食時、何気なく自販機の飲物は高いけどいつも買ってしまう話をしたところ、父から「当然、消費税も込価格やしな。来年また上がるしな。」という話を聞きました。僕は、自販機の飲物に消費税が入った値段であることを初めて知り、また増税することを聞いてさらに驚きました。たった一本の飲物にも消費税が必要であり、また飲物代が高くなる。安くなる物もたくさんある中、消費税は上がることしかない。そんな疑問から税金について少し勉強してみました。

調べる中で、税金には消費税の他、所得税、法人税等がありこれらは交付税という税金で、この税金の多くは、復興支援に使われていました。近年は自然災害が大規模であり、被災した道路や信号、病院や学校などの公共施設から、損壊住宅の再建など震災や豪雨災害に税金の多くが使われていることも知りました。

さらに、援助活動に入る、救助隊や自衛隊、警察などの出動費用や被災した住民への食糧や飲料水、瓦礫排除の環境衛生費など被災地の復興のみでなく、災害支援に携わる多くの人や物品のために使われていました。

税金は、応急対策や緊急事態のための必要不可欠なお金であることがよく分かりました。消費税は、商品価格にお金をさらに払って損したように感じる税金ですが、見えないところで、世の中を支える無くてはならない重要な物であることを理解しました。一人一人が払った税金はやがて多く積み重なり、人の力は無力である大災害時において、形ある物のみでなく、通常では見えない「人の命」を税というお金で救うことができるかけがえのない物であることが分かりました。

僕が毎日帰りに買っていたあの飲物は、今、全国の必要とされる場所や人のために使われているかもしれない。僕が買った飲物は父、母が働いた給料からもらったお金であり、僕はそのお金から消費税を払っていました。僕たちに納税義務はありませんが、父母の力を借り消費税として社会の一部に貢献できたことを嬉しく思い、改めて両親に感謝しました。

飲物一本からできる納税。今まで意識していませんでしたが、身近なところで税金は存在していて、生活の一部として成り立っていることを理解できました。

今は高校生ですが、将来社会人としてしっかり税金を納め、世の中の必要とされる多くの事に有効的に活用して頂くため、さらに税金を意識し生活していきたいと思います。